

第2次食育推進計画の分野別の取組状況と課題まとめ

「第2次食育推進計画」（平成29年度から令和7年度）の分野別の取組について、目標ごとに、現状と課題をまとめました。

分野別の取組み

	実践目標	事業名及び事業概要	現状	課題																
① 食生活と健康	①朝ごはんを必ず食べよう ②減塩に取り組み、素材の味を楽しもう ③1日350gをめざし、野菜接種量を増やそう	<p>&lt;事業名&gt; 給食参観 &lt;概要&gt; 保護者に食事等の話をし、実際に給食を食べている子どもを見ていただく。</p>	<p>①「子ども期」からの早期介入と家庭全体への意識波及給食参観や食育だよりの発行、離乳食教室などの取組を通じ、生涯の健康を左右する早期からの介入がなされている。子どもの学びを家庭でのレシビ活用や食事環境の改善に繋げる「健康づくりの好循環」が生まれている。</p>	<p>① 健康無関心層・未参加層への重点的介入とアプローチ手法の確立 各種教室やアンケートの参加者が「意識の高い層」に偏る傾向がある。共働き世帯や働く世代など、平日の事業に参加しにくい層をスクリーニングし、優先的に介入するための職域アプローチや周知の工夫が必要である。</p>																
		<p>&lt;事業名&gt; 嗜好調査の実施 &lt;概要&gt; 保育所・幼児学園・こども園の1～5歳児を対象に年1回実施する。結果を全体や各園で考察し、食育活動に活かす。</p>	<p>② あらゆる機会を逃さない「健康の入り口」の最大活用と個別支援 妊娠届出時の面接、乳幼児健診、各種相談会など、市民との接点を最大限に活用した個別指導が実行されている。ライフステージに応じたきめ細やかなアセスメントにより、不安軽減や行動変容に寄与している。</p>	<p>② 「参加」から「改善」への評価軸の転換と生活習慣の定着 事業の実施結果だけでなく、健診後の精密検査受診率や尿ナトリウム比の改善率など、実際の健康状態の変化を重視する評価が必要である。一過性の啓発に留まらず、長期的な変容を確認するための継続的なフォローアップ体制が課題である。</p>																
		<p>&lt;事業名&gt; 食育だよりの発行 &lt;概要&gt; 月に1回、食育だよりを発行する。</p>	<p>③ 専門知を活かした数値化(見える化)とインセンティブの活用 大学等との連携による尿中ナトリウム・カリウム比の測定や、健康ポイント事業との連動により、健康状態の変化を視覚化している。これにより、無関心層を含めた幅広い市民の参加意欲を高める工夫がなされている。</p>	<p>③ 担い手不足を補う安定した実施体制と組織間連携の強化 専門職(管理栄養士等)のマンパワー不足や、コロナ禍で中断した事業の指導体制再構築が求められている。担い手不足を補い、施策を継続できるよう、関係各課や外部団体とのさらなるパートナーシップによる効率的な連携検討が必要である。</p>																
		<p>&lt;事業名&gt; クラス配膳(5歳児) &lt;概要&gt; 普段は給食室で盛りつけている給食を各自で入れる。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 伴走型相談支援事業(たまびよくらぶ) &lt;概要&gt; 妊婦とその夫、その家族を対象に、妊娠・出産・子育て・食生活・歯科について知識を持つ機会とする。 ※令和6年度よりパパママ教室を廃止し、伴走型相談支援事業の一つとして、NPO法人グループに委託している。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 妊婦食事診断 &lt;概要&gt; 妊婦を対象に、食事や栄養面について情報の発信や相談に対する助言を行い、妊婦と胎児の健康づくりを支援する。また食生活を振り返り、今後の食事や栄養について考えていく機会とする。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 乳幼児健診 &lt;概要&gt; 乳児前期健診、乳児後期健診、1歳8ヵ月児健診、2歳5ヵ月児健診、3歳5ヵ月児健診にて、各月齢、年齢に合わせた規則正しい生活習慣の確立に向けての指導等の実施。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 尿中ナトリウムカリウム比測定 &lt;概要&gt; H29～CKD予防教室で実施。 R1～食生活改善推進員育成研修で実施。 特定保健指導、糖尿病重症化予防指導で必要時実施。 尿中ナトリウムカリウム比測定を実施することで、塩分や野菜摂取などの食習慣を見直しにつなげる。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 離乳食教室 &lt;概要&gt; 対象は概ね3ヵ月からの乳児とその保護者。乳児の成長、発達にあわせて遊びや離乳食に関する知識を深め、保護者や家族の食生活を考える機会とする。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 1歳すくすく教室 &lt;概要&gt; 対象は概ね1歳3ヵ月～1歳5ヵ月の幼児とその保護者。1歳前半の成長発達に応じた、食生活、歯科保健、遊びについて学ぶ機会とする。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 健康に対するアンケート &lt;概要&gt; 南丹市立小中学校の小学5年生、中学2年生を対象に、生活習慣等の実態把握をし、今の子どもを取り巻く課題を明らかにするためにアンケートを実施。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 市民健診結果報告会 &lt;概要&gt; 市民健診(各種がん検診、メタボ予防健診、特定健診、すこやか健診)の受診者に対して、健診結果にあつた適切な指導を行い、病気の早期発見・早期治療及び生活習慣の改善につなげる。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 骨粗しょう症健診 &lt;概要&gt; 対象は20～70歳までの女性。健診を通して現在の骨量を知り、骨粗しょう症による骨折等であらゆる状態を未然防止する。また、骨量を保つ生活習慣を意識し健康増進を図る。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 慢性腎臓病(CKD)予防教室 &lt;概要&gt; 対象は、特定健診受診の結果、血圧、腎機能検査で要指導・要医療判定の者(血圧・腎機能で要治療・経過観察中の者は除く) 慢性腎臓病やその予防に関する知識を得て、発症予防と進行抑制につなげる。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 健康運動教室 &lt;概要&gt; 概ね20歳～74歳の方で3Km以上歩ける方を対象に、運動不足改善及び、ロコモティブシンドローム予防を目指した運動に関する正しい知識と主体的な自宅で継続できる運動方法を普及し健康寿命の延伸を図る。</p>	<p>&lt;事業名&gt; フレイル予防教室 &lt;概要&gt; 対象は通いの場に参加している75歳以上の高齢者。生活習慣病の重症化予防と心身機能の低下を予防し、健康寿命の延伸を図るため、通いの場において、低栄養、口腔、運動機能低下についての健康教育・相談を実施する。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 特定保健指導 &lt;概要&gt; 南丹市国民健康保険被保険者で対象者となった者に対し、自らの健康に関する自己管理ができるようになることをめざし保健指導を実施。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 糖尿病サポート事業(糖尿病重症化予防) &lt;概要&gt; 市民健診受診者で糖尿病治療中の者に対して、重症化を予防するため個別指導を実施する。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 食生活改善推進員育成研修 &lt;概要&gt; 食生活改善推進員養成講座修了者に対し、育成のための研修を実施し、健康づくりのために必要な情報や栄養の基礎知識を学ぶ機会とする。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 健康レシピの作成及び啓発 &lt;概要&gt; 全市民において朝食摂取の向上や野菜摂取量の増加、減塩を目標とし、実践しやすい媒体の提供を行う。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 元気レシピ &lt;概要&gt; 全市民に向けて、南丹市ラインやホームページにて、レシピを掲載。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 食育のほり &lt;概要&gt; 食育のほりを作成し、朝食摂取、野菜摂取などについて啓発。</p>
		② 食文化の継承	<p>&lt;事業名&gt; 食育の日献立 &lt;概要&gt; 毎月食育の日(19日前後)に、食べ方や栄養バランスなど「食」の大切さについて学ぶ機会を設定し、一汁二菜の「食育の日献立」を実施。</p>	<p>① 子ども期からの「生涯の健康」に資する和食文化の定着 「食育の日」や「和食の日」に合わせた年間計画に基づき、地元の特産品や郷土料理を取り入れた給食を提供している。児童生徒が和食を身近に感じ、日本の気候風土や伝統を学ぶ「健康の入り口」を確実に確保できている。</p>	<p>① 個人の努力に頼らない供給体制の整備とメニューの充実 給食の作業工程上の制限や共通使用できる特産品の不足により、献立が固定化する傾向にある。地元の特産品を安定的に活用できる仕組みを整え、個人の嗜好や努力に頼らず多様な郷土料理を体験できる環境整備が必要である。</p>															
			<p>&lt;事業名&gt; なんたん食育の日献立 &lt;概要&gt; 南丹市の特産品を使用した献立や「南丹・健康食育レシビコンテスト」の入賞作品、また、和食を中心とした献立を取り入れ、食について学ぶ機会として実施。</p>	<p>② 家庭への意識波及と多角的な情報発信 「食育だよりの発行や行事食の提供を通じて、季節ごとの意味や味わいを伝える取組が子どもや保育士の間で定着している。子どもの学びを家庭へ繋げ、家族全体の食への関心を高める好循環が生まれている。</p>	<p>② 普及啓発における地域差の解消とパートナーシップの強化 食生活改善推進員の研修状況にばらつきがあり、伝統食への認知に地域差が生じている。地域リーダーや外部機関との連携(パートナーシップ)を深化させ、だし以外の伝統文化も含めた質の高い情報を均一に届ける体制が求められている。</p>															
			<p>&lt;事業名&gt; たしで味わう和食の日 &lt;概要&gt; 11月24日の和食の日に合わせて、日本で大切に育んできた和食文化について考える機会として、和食献立を実施。</p>	<p>③ 自立に向けた実践的スキルの育成と伝統体験 「弁当の日」の取組等を通じ、子どもたちが自発的に献立作成から調理までを行う機会を提供している。梅干しづくり等の伝統体験も含め、生涯を通じて健やかに暮らすための自己管理能力(生きる力)の育成が図られている。</p>	<p>③ 時代に即した評価軸の転換と事業内容の再定義 事業名が類似しており判別しにくい点や、「伝統の維持」と「喫食率の向上(食べやすさ)」のバランスが課題となっている。実施結果だけでなく、食文化に対する意識の変化を重視する評価軸の転換と、現在のライフスタイルに即した事業名の見直しが必要である。</p>															
			<p>&lt;事業名&gt; 日本の味めぐり &lt;概要&gt; 日本各地の郷土料理を取り入れた献立を実施し、その土地の気候風土や食文化を知る機会とする。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 食育だよりの発行 &lt;概要&gt; 毎月発行する食育だよりに、季節ごとの行事食の意味や味わいなどを載せる。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 行事食を取り入れた給食献立 &lt;概要&gt; 子どもが食べやすくアレンジしながら昼食やおやつに献立に取り入れている。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 食生活改善推進員育成研修 &lt;概要&gt; 食生活改善推進員養成講座修了者に対し、育成のための研修を実施する。そのうち1回は伝統食の講習を実施し、家庭や地域に広める機会にする。</p>	<p>&lt;事業名&gt; 生きる力を育む「弁当の日」 &lt;概要&gt; 子どもたちが自分で、栄養バランスを考え、買い物、献立、調理、弁当箱への詰め込み、片付けまでの一連を通して、生きる力につなげる取組。その中で、梅干しづくり体験など、昔から食べられている食材についても学ぶ機会としている。</p>													

	実践目標	事業名及び事業概要	現状	課題
③ 風土を活かした食育（地産地消）	①地元産のことを知ろう ②地元産をもっと食卓に、地産地消を進めよう	<p>&lt;事業名&gt; 京野菜ランド拡大・強化事業 &lt;概要&gt; 京都市が「京野菜ランド」として登録した直売所において、「学ぶ・食べる・買う」の機能を拡大、安心・安全対策を含め強化し、生産者と消費者の交流を促す補助金事業。農政課・農業推進課が窓口となっていた。</p>	<p>① 地域資源を活用した多角的な接点づくりと情報発信 地産地消マップの配布や、献立表「地産地消だより」を通じた産地情報の提供により、児童生徒や市民の地元食材に対する理解を深めている。あらゆる機会を逃さず、地元の農産物を「健康の入り口」として紹介する取組がなされている。</p>	<p>① 個人の努力に頼らず「地産地消」を推進できる環境整備 市内全域での安定的な地元食材の供給体制や、季節・業者による産比率の変動が課題である。個人の努力や選択に頼りすぎず、給食や地域社会の中で自然に地元食材を享受できる仕組みづくりが求められている。</p>
		<p>&lt;事業名&gt; 市民提案型まちづくり活動支援交付金(R2年度～ まちづくり活動交付金) 学生提案型まちづくり活動交付金(R4年度～) &lt;概要&gt; 市民(学生)が地域で自主的に取り組む活動を支援する。</p>	<p>② パートナーシップによる自主的活動の支援と高度化 市民・学生による地域活動支援交付金や、直売所の機能強化を図る「京野菜ランド」事業などを通じ、行政主導に留まらない持続的な食育の基盤を整備している。外部機関や地域住民との連携により、施策の質を高めている。</p>	<p>② 健康無関心層・若い世代への重点的な職域・地域アプローチ 養成講座や研修の参加者が固定化・高齢化する傾向にあり、若い世代の参加や伝統的な食文化の伝承者が不足している。健康無関心層へ情報を届けるため、職場や商工会等と連携した新たな介入手法が必要である。</p>
		<p>&lt;事業名&gt; なんたん食育の日献立 &lt;概要&gt; 南丹市の特産品を使用した献立や「南丹・健康食育レシピコンテスト」の入賞作品、また、和食を中心とした献立を取り入れて、食について学ぶ機会として実施。</p>	<p>③ 実体験に基づいた早期介入と家族への意識波及 園での野菜栽培や地元産米の炊飯(あつたかごはんの日)、親子で取り組むレシピコンテストなどを通じ、旬の食材を「選ぶ・作る・食べる」実体験を提供している。子どもを家庭全体の健康づくりにつなげる好循環が生まれている。</p>	<p>③ 施策の波及効果の拡大と「改善」を重視する評価軸の転換 栽培活動の場や作成レシピの活用(飲食店等との連携)をさらに広げ、実生活への定着を図る必要がある。また、単なる「実施」に留まらず、地産地消の推進が市民の食習慣や健康状態にどのような改善をもたらしたかを重視する評価が必要である。</p>
		<p>&lt;事業名&gt; 地産地消だより &lt;概要&gt; 栄養教諭、食のコーディネーターが市内の農家・生産者を訪問。その内容を「地産地消だより」に掲載し各校に配布する。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 産地公表 &lt;概要&gt; 毎月配布する献立表の裏面に野菜・魚・肉などの産地を載せている。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; あつたかごはんの日 (3～5歳児) &lt;概要&gt; 地元産の炊き立てのごはんを食べる。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 菜園活動 &lt;概要&gt; 年間通しての野菜栽培。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 食生活改善推進員養成講座 &lt;概要&gt; 地域における食生活改善を中心とした健康づくり運動を積極的に推進する食生活改善推進員を養成する。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 食生活改善推進員育成研修 &lt;概要&gt; 食生活改善推進員養成講座修了者に対し、育成のための研修を実施し、健康づくりの為に必要な情報や栄養の基礎知識を学ぶ機会とする。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 生きる力を育む「弁当の日」 &lt;概要&gt; 子どもたちが自分で、栄養バランスを考え、買い物、献立、調理、弁当箱への詰め込み、片付けまでの一連を通して、生きる力につなげる取組み。その中で、学校や地域でとれた農作物を使用し地産地消を推進している。</p>		
<p>&lt;事業名&gt; 南丹市健康・食育レシピコンテスト &lt;概要&gt; 対象は南丹市在住の小中学生。野菜・カリウム摂取、減塩をテーマにレシピを募集し、審査により賞を決定。レシピを学校給食や市内の飲食店で活用し、南丹市が食を通して健康で元気なまちづくりを目指す。また、メニューの作成や調理を通して、地産地消や健康な食生活を家族と一緒に考える機会とする。</p>				
<p>&lt;事業名&gt; 健康レシピの作成及び啓発 &lt;概要&gt; 全市民において朝食摂取の向上や野菜摂取量の増加、減塩を目標とし、実践しやすい媒体の提供を行う。</p>				
④ 食とコミュニケーション	①家族や仲間と一緒に食事をする時間を増やそう ②役割を持って食卓づくりに関わろう	<p>&lt;事業名&gt; なんたんまちゼミナール &lt;概要&gt; まちなかの店主たちが講師となりプロならではのコツを教える少人数制の講座を開き、「お店」と「まちなか」のファン作りを目指す。</p>	<p>① 地域経済と連携した賑わい創出と「健康の入り口」の拡大 「なんたんまちゼミナール」等の実施により、店主と市民の交流を促進している。プロのコツを伝える少人数制の講座を通じ、店舗への来店きっかけ作りや街なかのファン作りを進めることで、食を通じた地域の信頼関係構築に寄与している。</p>	<p>① 担い手不足を補う安定した実施体制と環境格差の解消 保育士の経験不足や人手不足により、園によって食育の取組内容や指導力に差が生じている。担い手不足を補い、施策を継続できるよう、専門職の確保や外部機関とのパートナーシップによる安定した実施体制の構築が必要である。</p>
		<p>南丹市お持ち帰り弁当等販売促進補助金 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者が、持ち帰り弁当又は家庭用食材等を製造し、弁当情報サイト「Kyoto Iku Day」と連動したテイクアウトの取組を支援。</p>	<p>② 家族や地域を繋ぐイベントを通じた意識の波及 レシピコンテストや「園部城まつり」での販売を通じ、家族で健康について考える機会を創出している。子どもの学びを家庭や地域全体の健康づくりにつなげる好循環が生まれており、多くの市民に活動を知ってもらうきっかけとなっている。</p>	<p>② 「参加」から「定着・改善」への評価軸の転換と継続支援 乳幼児期の良好な食習慣が成長とともに変化し、アンケート結果が若干悪化する傾向にある。事業への参加に留まらず、小学校・中学校へ繋がる切れ目ない伴走型サポートと、実際の食習慣の改善を重視する評価への転換が求められている。</p>
		<p>南丹ブランド定着イベント事業 南丹ブランド産品普及及び定着を目的として、南丹ブランド普及モデル事業及び南丹ブランド定着イベント事業に対して補助するもの。</p>	<p>③ 子どもの興味を引く体験型食育による早期介入 園でのクッキングや収穫野菜の調理体験を通じ、子どもたちが楽しみながら食に関わる機会を提供している。乳幼児健診のアンケート結果も、小中学校と比較して良好な状況を維持しており、早期からのアプローチが一定の成果を上げている。</p>	<p>③ 事業間の連携最適化と「自然に交流できる」場づくり レシピコンテストの募集時期と給食提供のタイミングのスズレなど、既存事業をより効果的に連動させるためのスケジュール調整が必要である。また、活動を定着させるために「健康レストラン」の開催など、市民が立ち寄りやすくなる新たな居場所作りが課題である。</p>
		<p>園部城まつり</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; クッキング &lt;概要&gt; 菜園活動で収穫した野菜などを使って料理する。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 親子クッキング &lt;概要&gt; 親子で料理する。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 保護者対象のクッキング &lt;概要&gt; (白吉中央保育所) 保護者を対象に、クッキング教室を開催した。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 幼児健診 &lt;概要&gt; 1歳8か月児健診、2歳5か月児健診、3歳5か月児健診にて生活習慣アンケートを実施し、家族が揃った食事の実数把握を行っている。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; 南丹市健康・食育レシピコンテスト &lt;概要&gt; 対象は南丹市在住の小中学生。野菜・カリウム摂取、減塩をテーマにレシピを募集し、審査により賞を決定。レシピを学校給食や市内の飲食店で活用し、南丹市が食を通して健康で元気なまちづくりを目指す。また、メニューの作成や調理を通して、地産地消や健康な食生活を家族と一緒に考える機会とする。</p>		
		<p>&lt;事業名&gt; なんたんテレビ文字放送 &lt;概要&gt; 「食育月間」「食育の日」についてなんたんテレビ文字放送にて啓発。</p>		
<p>&lt;事業名&gt; 食育のほり &lt;概要&gt; 食育のほりを作成し、「食育月間」「食育の日」とあわせて啓発し、皆が一斉に食育について考え、家庭でも取り入れて頂ける機会とした。</p>				
総合的な取り組み	実践目標	<p>&lt;事業名&gt; そのへんトラ市での啓発 &lt;概要&gt; 「そのへんトラ市」会場で、食育庁内委員による啓発を行う</p>	<p>① 多様なメディアと接点を活用した「健康の入り口」の最大活用 CATVでの動画配信、広報誌へのレシピ掲載、イベント会場(軽トラ市)での啓発など、デジタルとアナログを組み合わせた多角的な広報を展開している。あらゆる機会を逃さず、市民が健康情報に触れる接点を多層的に創出している。</p>	<p>① 「参加・閲覧」から「行動・改善」への評価軸の転換と把握 レシピ掲載や啓発活動に対し、市民が実際に調理・喫食しているか、また行動変容に繋がっているかといった「実施効果」の可視化が不十分である。単なる広報実績だけでなく、市民の健康状態の変化を重視する評価手法への移行が必要である。</p>
		<p>&lt;事業名&gt; 南丹CATV「おいしく・たのしく・ごちそうさま」 &lt;概要&gt; 毎月南丹CATVで食育推進に関する広報を行う</p>	<p>② 市民の関心を引き質の高い情報発信と家庭への意識波及 子どもたちの様子や生活習慣改善推進員の活動紹介など、市民に身近に関心を引きコンテンツを提供している。簡単に実践できるレシピの掲載は、家庭全体での健康づくりを促す「好循環」のきっかけとなっている。</p>	<p>② ターゲットを絞った高度な情報提供と職域アプローチ CATV番組等のコンテンツについて、庁内の取組として質を維持しつつ、職場や商工会と連携して「働く世代」にも届きやすい内容へとブラッシュアップする必要がある。特定の層に合わせた戦略的な介入が求められている。</p>
		<p>&lt;事業名&gt; 広報なんたん「なんたん健康ノート」 &lt;概要&gt; 2月に1回広報なんたんにて、食育推進に関する広報を行う</p>	<p>③ 組織横断的なパートナーシップと推進体制の構築 庁内食育推進協議会による情報共有に加え、民間事業所を巻き込んだ食育ロゴマークの配布など、行政内部および地域社会全体で食育を推進するための基盤が整備されている。外部機関との連携により、施策の広がりを持たせている。</p>	<p>③ 担い手不足を補う持続的な推進体制の深化 食育ロゴマークのさらなる普及や、協議会での協議内容を具体的な事業成果(市民の健康改善)へと繋げる実行力のある連携体制の深化が課題である。担い手不足を補い、施策を継続できる安定的かつ効果的な運用検討が必要である。</p>
		<p>&lt;事業名&gt; 食育ロゴマークの推進 &lt;概要&gt; 食を通して「食と健康」「日本文化の継承」「地産地消の促進」「食を通じたコミュニケーション」を推進している事業所からの申請により、食育ロゴマークを配布する。</p>		
<p>&lt;事業名&gt; 庁内食育推進協議会 &lt;概要&gt; 食育推進計画が推進するように、庁内食育推進委員会にて、情報の共有や協議を行う</p>				